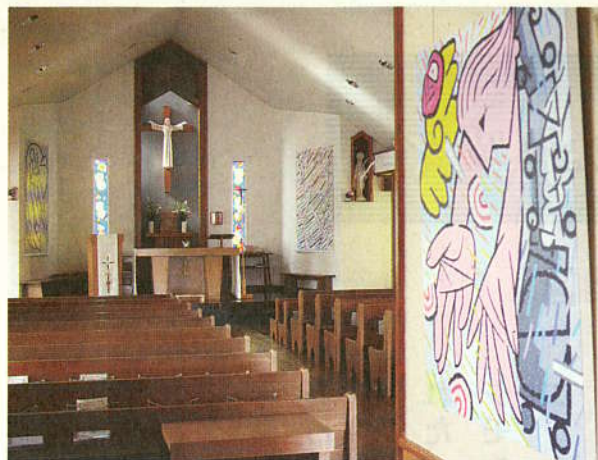




▲聖堂入り口の油絵「エリカ奇跡のいのち」(右)

▲壁画を仕上げる九十九さん。肌色の「パンとカリ」は「聖体」を表し、カリスの中心には「おん血」を表す赤い点が描かれた

十一月二十七日に行われた感謝ミサ・記念式典には九百人以上の参加者が集まった。これまで同教会が南米・ボリビアに援助金を送っていたことが縁で同国の駐日大使家族が東京から駆けつけるなど、にぎやかな式典となった。

聖堂の壁画やステンドグラス スペイン在住の画家が提供

50周年の行橋教会(福岡)

福岡県行橋市の行橋教会(主任・山元眞／福岡教区)は昨年十一月末に創立五十周年を迎えた。同教会では五十周年を機に聖堂を改装したが、地元行橋市の出身でスペイン・バルセロナ在住の画家、九十九(つくも)伸一さん(50)が、自ら制作した壁画や油絵、ステンドグラスを提供、聖堂を飾っている。

○四年八月には九十九

さんが原画を描いたステンドグラス「天使の時空」が、聖堂内の五力所に取り付けられた。昨年五月には正面両脇に一对の油絵、「ロンダニーニのピエタ」「聖霊降臨」が飾られ、七月には左右の側壁に「自然界の恵み」と「祈り」の壁画が、十一月には後壁に「トスカーナのアリアーキリストの聖体」が完成した。

壁画は柔らかな曲線で描かれており、山元神父も「この聖堂の中にいると、何かに包まれているような温かい感じになる」と喜ぶ。